



# 布施だより

## 《 第 50 代生徒会スタート ～ 立ち合い演説会から ～ 》

第 50 代生徒会正副会長選挙立ち合い演説会が 11 月 20 日 (木) にありました。

候補者諸君はまっすぐに公約を訴えます。〈50 周年目の学校をより良くしたい〉〈笑顔プロジェクト〉〈意見箱の設置〉〈あいさつ運動を伝説とする〉〈学校生活の凡事徹底〉〈コミュニケーションを深める〉〈責任感をもって委員会活動に向かっていく〉〈一期一会〉〈仲間との絶妙のコミュニケーション〉。公約を支える責任者諸君がその人柄を押す理由は〈汚れた配膳台を自分から拭ける〉〈叱るべき時に周囲を叱れる〉〈膝をついて雑巾がけができる〉をそれぞれ伝えてくれます。

気づくと、聴いている生徒諸君は水を打ったように静寂を保ち、顔を挙げています。

ステージ上では、候補者と責任者の二人が息を揃えて深々とあいさつをしている。

文末を「・・・お願いいたします。」と敬体を使いこなしている。

(これまで全校が集まり、講演会をお聞きしたり、生徒集会・音楽集会を開催したりした時など、お世辞にも静かに耳を傾ける状況ではなかった生徒諸君が、この瞬間、全く違う表情を見せてくれています。まっすぐに候補者の諸君の思いを受け止めようとしてくれている！ピンと空気が張り詰めていました。)

何て礼節に満ちあふれた演説会だったんでしょう。第 50 代生徒会を全校で、全力で、支えていこうという思いにさせてくれる演説会でした。ここまで心を砕いて準備を整えてくれた選挙管理委員の皆さん、ありがとうございました。そして学年内選挙から始まった各クラスの候補者・責任者の皆さん、大変ご苦労様でした。選挙活動を通して得た貴重な経験は、これからの生活に必ず生きていきますね。

選挙を終え、新たに選出された高野連さん、渡辺壮太さん、藤田怜さんの三役諸君が週明けの職員室にあいさつにきてくれました。



まっすぐに候補者の諸君の思いを受け止めてくれている！



## 《 ありがとうございます ～ 篠ノ井老人クラブ連合会の皆様～ 》

11 月、篠ノ井老人クラブ連合会女性部の皆様から中学校へ「タオル」を寄贈していただきました。「タオル」には次のご挨拶文が添えられていました。ご紹介いたします。



老人クラブ活動は、健康・友愛・奉仕の三大運動が原点であります。本格的な超高齢化社会を迎えるにあたり、今までの豊かな経験と知識や技能を存分に活用し、生きがいと地域を豊かにする活動、健康作り、介護予防など多彩な活動を展開して参ります。

さて、篠ノ井老人クラブ連合会女性部の〈友愛と奉仕〉の心の活動として、会員からタオルを頂きましたので、ご活用いただきたくお届けいたします。会員一同、地域に役立つことをと願い、今後も継続して活動を続けたいと考えていますので、よろしく願い申し上げます。

いただきました「タオル」は、授業の中で、保健室の中で、活用させていただきます。感謝いたします。

## 《 「命」の学習 ～ 思春期の思い ～ 》

11月21日に「命の学習講演会」が学年ごとに講師の先生をお呼びして開催されました。思春期の生徒諸君に「命」の学習を通して、自分と周囲とのつきあい方、心のこと、体のことを見つめる機会となりました。保健室の押鐘美幸先生は次のように伝えてくれます。

「わかってくれない。」いろいろな生徒が口にしていて、心にとめている言葉です。誰かわかって、誰か助けて、誰か認めて、誰か自分を見て、「誰か！！」そんな寂しくて不安で仕方がない心の叫びのように感じられます。そんな生徒たちに、「一人じゃないよ。」「いつも誰かがあなたをみているよ。」「あなたがとても大事だよ。」という気持ちを届け、大切な自分を感じてもらいたい。そして、自信を持って、安心して素敵な大人になってもらいたいと私は思っています。全校生徒が成長にあわせ、“こころ”や“からだ”について正しい知識を理解し、その知識を、自分の生活や生き方に生かして実感に変え、誰もが大切な自分を感じられるようになってほしいと願い、3年間積み上げて、命の学習を行っています。生徒の感じた想いを紹介します。



〈3. 11の日に産まれてきた小さな命。その時は、自分も妹がいて、まだ1歳で家は大丈夫かな？妹は大丈夫か心配でした。でも、その日に産まれた子供たちは、母親が一番不安だと思いました。地震が起きている中で産まれてきて、母親の腹の中にいるときは、この子を守ってあげなくちゃという気持ちがあり、その気持ちをそばで守ってくれた助産師。その小さな命が産まれるまでの間、光の少ない中、よくがんばったと感じ、小さな命は、いろいろな人に支えてもらい、今現在あるんだという気持ちを学びました。〉

今回の学習講演会では、専門家の方の知識と、思い、願いを伝えていただきました。この出会いから、生徒が「命」について学んだことは多かったようです。～ ～ ～

「命」について言及するとき、中島みゆきさんの『誕生』の歌詞が思い返されます。『誕生』に寄せてのエピソードです。……

中島みゆきさんは、言葉を取りわけ大事にする人で、こんなことを言っています。「私の興味は、歌詞をどう伝えるかの一点に尽きる。私にとっての音楽とは、言葉の後ろのほうにあるもの。多分、言葉のために音楽をやっているんだと思う。」彼女が美しいメロディーや心弾むリズムではなく、言葉のために音楽を創り続けているのはお父さんの影響があったようです。

娘には優しく父に、みゆきさんが厳しく叱られたのが小学校3年生の時でした。友達に対して相手を傷つける言葉を口走ったのです。その時、父はみゆきさんを心から叱ってくれ、こういう言葉で諭してくれました。～いったん口にしたら元には戻らない。言葉で人を斬ったらつける薬はない～そんなことがあって、みゆきさんは「言葉にはすごい力がある。だからこそ大切に使うてはいけないんだな」と幼心に深く刻みつけ、それを実行してきたということです。51歳の若さで亡くなった父から教えられた～人を斬ったらつける薬はない～という教を常に守り、言葉を大切にしたい作詞作曲活動を今も続けられています。（大晦日の晩には「マッサン」の主題歌が聴かれますね。）故に中島みゆきさんの歌には、伝えたい強いメッセージがあります。『誕生』もそのひとつです。

### ～ 「篠ノ井西中学校創立五十周年記念事業実行委員会」からのお願い ～

「篠ノ井西中学校創立五十周年記念事業実行委員会」から、『ご寄付のお願い』と『記念誌～泉をくみあげて～刊行のお知らせ』のチラシを、今月の「回覧に配布していただきました。ご理解とご協力の程、よろしくお願ひいたします。

雪が舞ってきました。「流行語大賞」が発表になり、「今年の漢字」が清水寺に大書され、年末を迎えています。ゆっくりと2014年を振り返ってみると、皆さんにとってどんな輪郭や味わいが残るのでしょうかね。

今年も篠ノ井西中学校の活動にご理解とご協力を賜り、本当にありがとうございました。新年もよろしくお願ひいたします。

